



『ごみ収集という仕事』

「清掃車に乗って考えた地方自治」

「モンス」 二二〇〇円＋税

藤井誠一郎著

「次代を担う」

本号は土佐自治研特集号だ。本誌を自治研の会場でご覧になっていっている方もいると思う。この場で、自治研に最も近いテーマの本を紹介できることは幸運だ。著者は一五年「次代を担う研究者育成制度」自治労が結成六〇周年記念事業として始めた若手研究者育成のための奨学金制度」に採用された一人だ。奨学金支給の条件に現場体験があるわけではないが、著者は「現場主義」という自分のモット



ーをここでも貫いた。一六年六月から東京都新宿区でプレス車（パッカー車）に収集員として乗り込んだのだ。翌年三月まで断続的に清掃現場を経験する。その成果が本書だ。現場の雰囲気を実感しながら、清掃事業の仕組み、現実、課題を理解できる構成となっている。

この本を読んでもすぐに思いつくことがあった。本誌一九七七年八月号、今号と同じく自治研全国集會を前にして、「政策づくりと清掃労働者」をテーマに、現場と労働運動と政策づくりの緊密な一体化を求めた論考が発表されている。寄本勝美。彼もパッカー車に乗り現場の体験を通じて新しい労働運動と自治研活動の可能性をみていた。本誌の編集委員を長く務めた。

「清掃事業の現状」

それから四〇年が過ぎた。問題は複雑になった。直営の清掃事業は少数派となり、新宿でも直営、民間委託・雇上（よ

うじょうと読む）労働者供給事業が組み合わさって事業が行われている。著者は委託の現場で働く人たちにもインタビューを試みている。貴重な記録だが、今後の方向性を示すまでにはいたっていない。

最後に著者は「清掃事業の展望」に筆を進める。「攻め」の姿勢を強調した提案である。直営の価値を見直し、職の確立と拡張をうたっている。リユースの活用行政組織内での連携・提携の強化、地域担当への参加などアイデアが並ぶ。どれも妥当なものだが、読んで、一つだけ同意できなかった。それはごみ収集事業を外国人・不法滞在者対策へ活用しようという提案だ。生活ごみから摘発につなげる。「収集作業で明らかにになった情報を入国管理局や警察に提供し、不法滞在者対策に貢献していく」。きつと誰も望まないとと思う。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員

グラビア	地域を支える人 しんじょう君・高知県須崎市	1
発掘！地域の希望のタネ	鹿児島県大島郡喜界町〈喜界島の島そら豆〉	5
給食のじかん	〈伊勢崎豚丼〉群馬県伊勢崎市	秋間克也 6
書評	藤井誠一郎著『ごみ収集という仕事』	菅原敏夫 8
焦点	これでいいのか？ 第五次エネルギー基本計画	松原弘直 10

【土佐自治研集會特集号】

特集

私たちの手で自由・自治・幸福を作りだそう

土佐自治研コンセプト	自由・自治・幸福を土佐の地で議論しよう	青木真理子	18	
特別講演	AI時代の自治体のしごと、自治労の役割を展望しよう	津田大介	20	
座談会	日々の自治研活動と、土佐自治研への期待	小林郁子+澤木悠史+松崎理恵+徳永佳紀+佐藤茂雄	24	
メッセージ	第1分科会●三好康夫	32	第2分科会●浜田義隆	前田和彦 34
	第3分科会●今井 照	36	第4分科会●林 大介	38
	第5分科会●沼尾波子	40	第6分科会●大谷英二	42
	第7分科会●古庄和秀	44	第8分科会●河上暁弘	46
	第9分科会●森栗茂一	48	第10分科会●服部真治	50
	第11分科会●篠田 徹	52	第12分科会●柏木登起	54
	特別分科会●片田敏孝	56		

自治研チャレンジサポート優秀企画賞候補	58
土佐自治研情報コーナー	61

連載	「旧町村部」を歩く●長崎県佐世保市旧宇久町（本編①）	坂本 誠	63
各県自治研活動レポート	第五回地方自治研究神奈川集會を開催 —自治労神奈川県本部	中野雅臣	68
連載	『月刊自治研』を読む〈第三季〉●労働組合と協同組合の コラボ	篠田 徹	70